

資料 2 研究班 ウェブサイト

HOME

班長ご挨拶

班員構成

研究について

間質性膀胱炎レジストリ

リンク

間質性膀胱炎の
患者登録と
診療ガイドラインに関する研究班

↑
TOP

班長ご挨拶



泌尿器科では、腎臓や膀胱の尿路のみならず、副腎、男性生殖器、後腹膜など多様な臓器・組織の疾患を扱っています。病態別にみれば、悪性腫瘍、感染症、結石、機能障害、外傷・奇形などとなります。その中では、間質性膀胱炎はきわめて特異な疾患です。

間質性膀胱炎の主な症状は、膀胱の痛みや不快感、強い尿意、頻尿などです。これらの症状は、細菌性膀胱炎、結核性膀胱炎、膀胱癌、膀胱結石、過活動膀胱でもみられます。従って、上記のような症状を訴えて泌尿器科を受診すれば、このような疾患を疑って検査が進められます。ところが、間質性膀胱炎では、ほとんど

すべての検査で異常がありません。そのため、原因不明の膀胱痛と扱われ、治療どころか正しい診断さえ受けられませんでした。

しかし、2000年に間質性膀胱炎研究会が発足すると、その重要性が認識されるようになりました。2015年には、膀胱内に特異的な所見（ハンナ病変）がある「間質性膀胱炎（ハンナ型）」の重症例

研究について

我々の研究班は平成28年度の厚生労働省科学研究補助費（以下厚労科研）に採択と同時に発足し、平成30年度からは第2期目の研究を行っています。

この研究の目的の一つは、本邦における正確な患者把握を行うことにあります。患者さんの実態を把握することで、現行の重症度判定の適性評価を行い、個々の患者さんに適したより良い診察ができるようにすることが最終的な目標です。

平成28年度から29年度にかけて、全国規模のオンライン患者登録システムを構築し、登録を開始しました。この患者登録システムには研究班班員の施設から患者さんの病状や所見が登録されておりますが、全て登録個人情報を特定できないように匿名化したデータとして登録されております。平成30年度からは登録を本格化させ、全国規模で患者登録を行っております。

この研究の2つ目の目的は、患者さんの実態を把握した上で、最新の科学的知見に基づいた新しい診療指針（ガイドライン）を作ることにあります。ガイドラインを作成し、広く流布させることにより、医療水準の均てん化を図ることが可能となります。

ガイドラインにより、将来的に患者さんが国内のどこにいても標準的な治療を受けられるように、間質性膀胱炎の医療水準や医療技術の格差の是正がなされることが期待されます。

一般の皆様へ

間質性膀胱炎とは